

上下水道の「いま」と「これから」を伝える

おうしゅうの水

奥州市
上下水道
広報誌

3年12月に初めて発行した市上下水道部の広報誌「おうしゅうの水」。2回目となる今回は、水道水の水質や事業計画の見直し、3年決算、経営見直しについて皆さんにお知らせします。なお、下水道に関する記事は、広報おうしゅう2月本号に掲載する予定です。

図 上下水道部経営課(江刺総合支所・☎34-1516)



Q. 水の検査は何カ所でしているの？

A. 48カ所で定期的に検査しています。

浄水(蛇口から出る水道水) 26カ所、原水22カ所で水を検査しています。浄水は表の配水エリアごとの採水場所で採取しています。お住まいの地域の水質検査結果は、市ホームページなどで確認できます。境目などでエリアが分からない場合は、お問い合わせください。☎上下水道部水道課(☎34-2526)

▶水沢地域

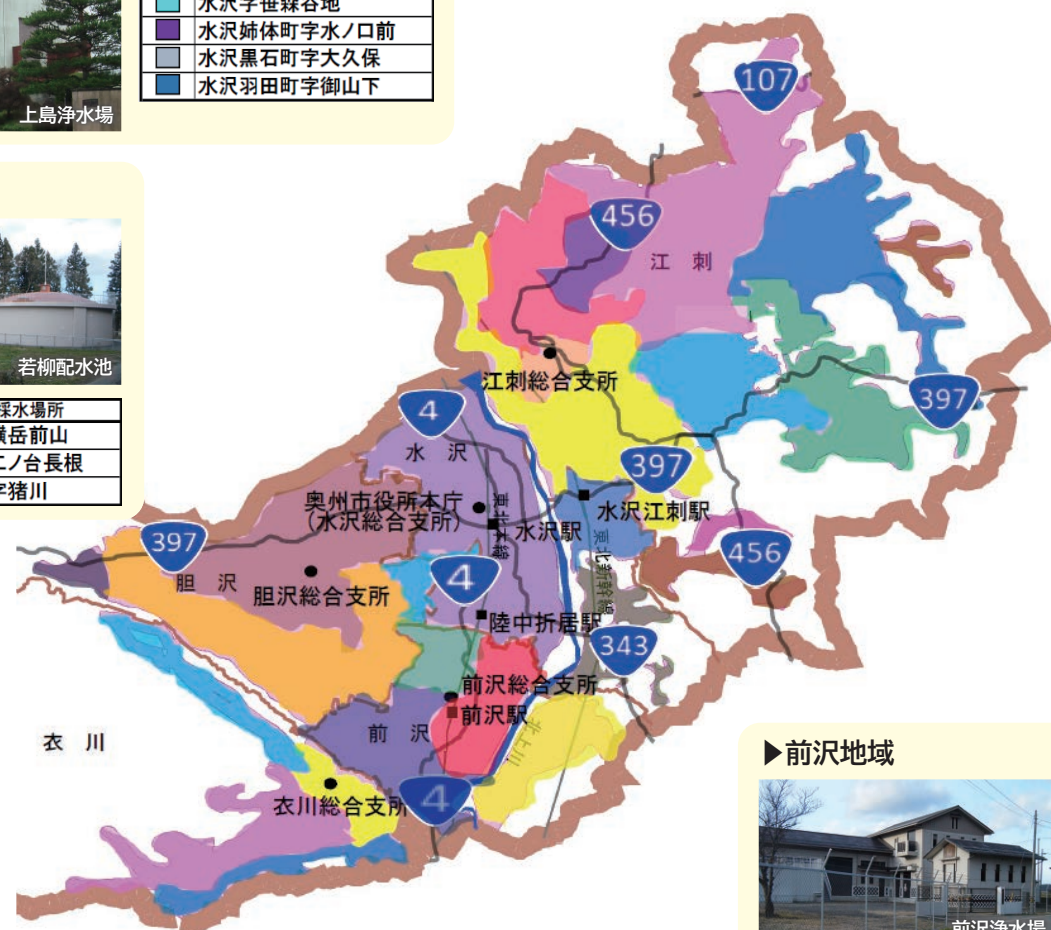


配水エリア別 採水場所
水沢字笹森谷地
水沢姉妹町字水ノ口前
水沢黒石町字大久保
水沢羽田町字御山下

▶胆沢地域



配水エリア別 採水場所
胆沢若柳字横岳前山
胆沢小山字二ノ台長根
胆沢南都田字猪川



▶前沢地域



配水エリア別 採水場所
前沢字七日町裏
前沢生母字羽場
前沢字南陣場
前沢古城字高代寺

▶衣川地域



配水エリア別 採水場所
衣川字沼野
衣川字大石ヶ沢
衣川字小田
衣川字古戸

水質検査結果の詳細を確認できます



- 上下水道部ホームページ
- 市民生活総合支援アプリ「ぼちっと奥州」
「くらし」→「水道事業」→「水質検査結果」
- 奥州金ヶ崎行政事務組合ホームページ
たんこう浄水場(胆沢ダムの水)の原水水質検査結果

上下水道部
ホームページ▶



奥州金ヶ崎
行政事務組合
ホームページ▶

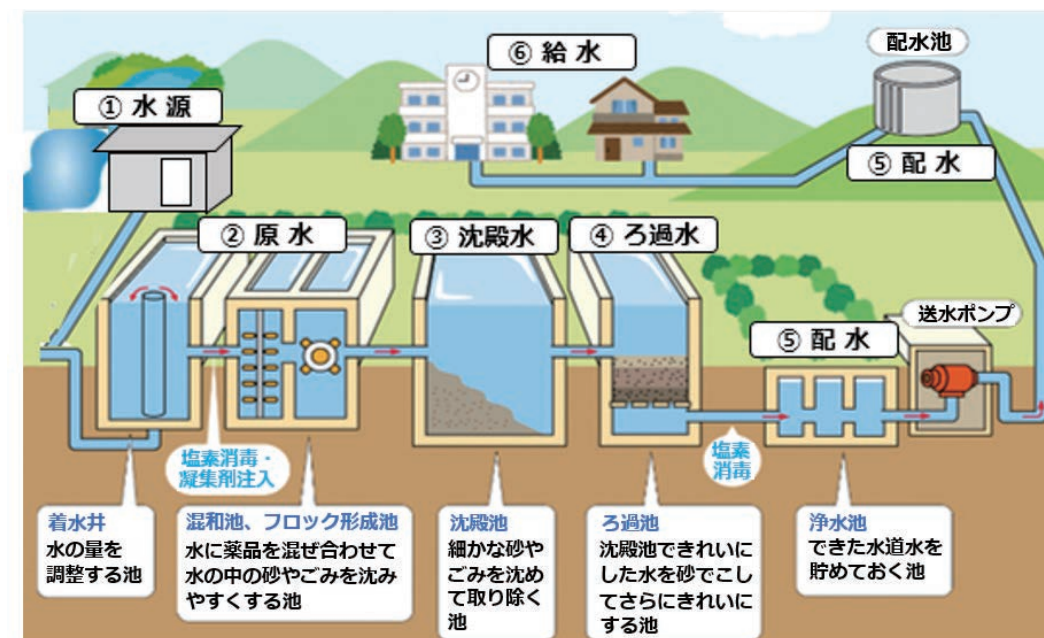


水道水の 水質 について

3年8月に行った水道お客様アンケートで、約7割の人から「水質について知りたい」との回答をいただきました。市では、毎月検査を行い、水質基準を満たしている安全・安心な水を安定的に皆さんにお届けしています。

Q. どうやって水をきれいにしているの？

A. 地下水や湧水など水源の水質に応じて、下図のように汚れの除去・消毒をしています。



Q. 水質のチェックポイントは？

A. 次のようなポイントがあります。

- | | |
|------|--------------|
| ①水源 | 汚染されていないか |
| ②原水 | 良質であるか |
| ③沈殿水 | 浄化がうまくいっているか |
| ④ろ過水 | 透明な水になっているか |
| ⑤配水 | 水質基準を満たしているか |
| ⑥給水 | 安全な水が届いているか |

Q. 検査項目はどれくらいあるの？

A. 法律で定められた51項目を検査しています。

健康関連31項目

人の健康に影響を及ぼす可能性のある項目
(無機物・重金属・消毒副生成物など)

生活上支障関連20項目

生活利用上、障がいが生じる可能性のある項目
(色・臭い・濁りなど)

Q. どんな検査をしているの？

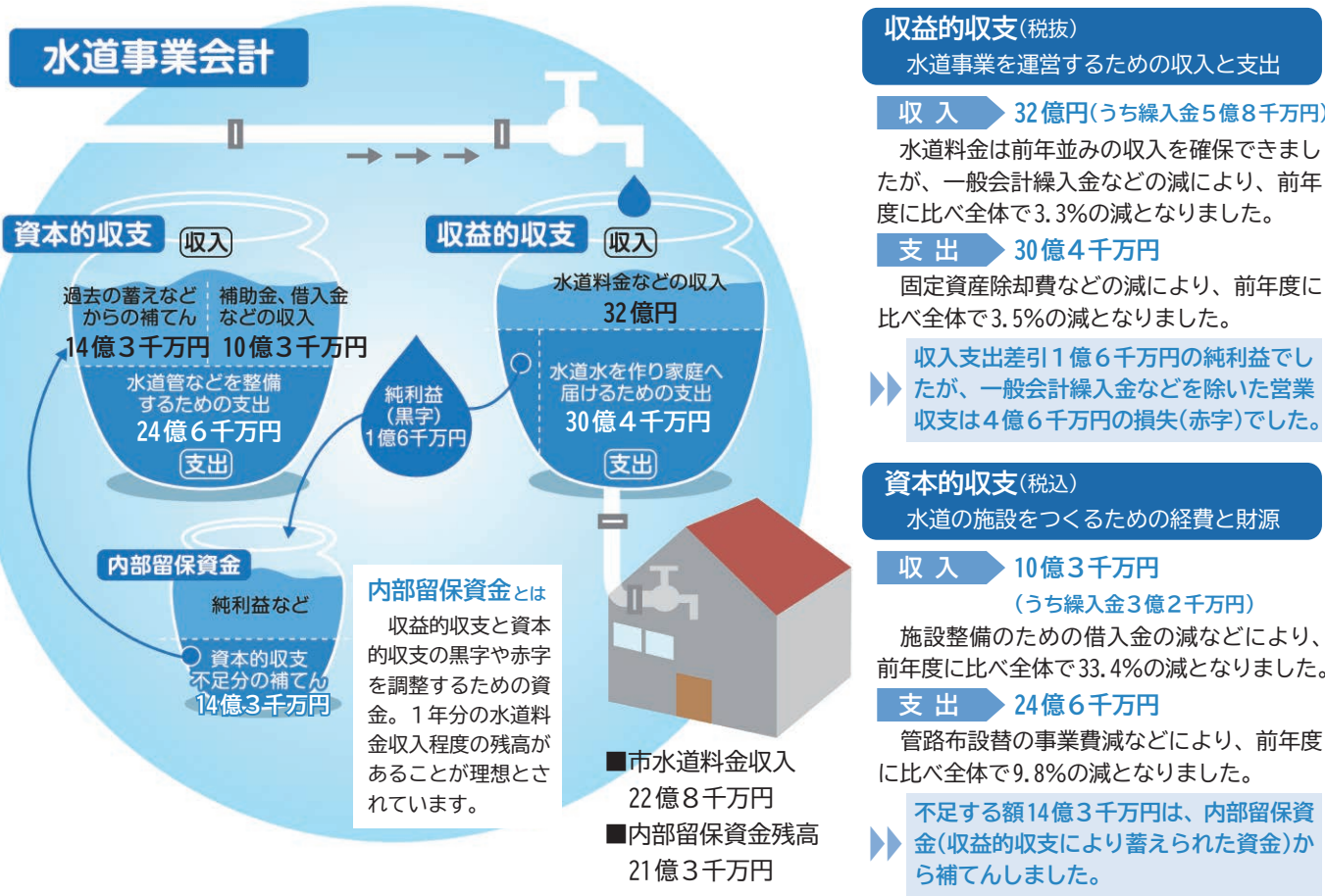
A. 色や濁りのほか、放射性物質も検査しています。

市では、高精度機器や目視による確認など、いろいろな方法で水質検査をしています。全ての項目で基準値を下回っており、安全な水であることを確認しています。



令和3年度 水道の決算状況

水道事業は、皆さんにお支払いいただいている水道料金を主な財源として運営しています。



水道経営の「いま」と「これから」

市は「安全」「強靱」「持続」の基本方針の下、事業を進めています。
水道施設の老朽化や使用水量の減少、電気料金の高騰などにより厳しい経営環境にありますが、長期的に安心して水道をお使いいただけるよう努めていきます。

令和6年度に赤字へ

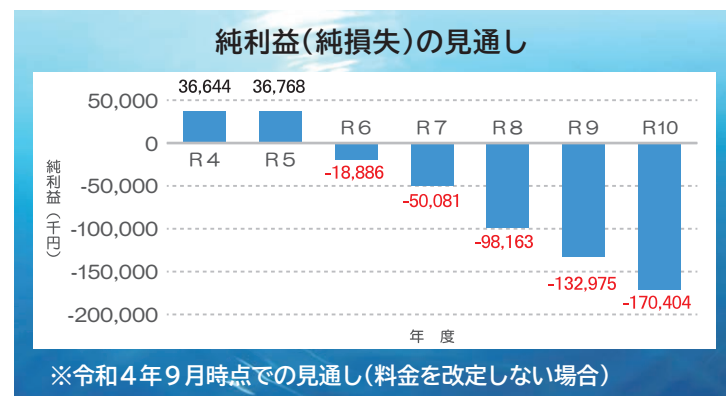
料金を改定しない場合の純利益(純損失)の見通しは、右のグラフのとおりです。
今後はこれまで以上に「人口減少などに伴う料金収入の減少」や「老朽管更新事業の継続」などが水道事業経営に影響すると考えられます。設備の整備や維持管理にかかる経費の増などにより、令和6年度には収支が赤字に転じる見通しです。

適正な料金のあり方を検討

水道事業の経営については、これまでも業務委託の見直しなどで経費削減に努めてきま

したが、このような状況から、料金値上げなどの検討を進めています。

将来の更新費用や水道料金収入などについて、さらに詳しい見通しを立て、広報などを通して皆さんにお伝えしていきます。



市水道事業計画の見直しを行いました

① 水道事業の課題

奥州市の給水人口は、平成17年度から令和3年度の間に約1万5千人も減りました。今後も減少傾向は続いています。
水道の施設や管路を維持していくために必要な施設整備費用は、平成30年度から令和39年度までの40年間で、約1,226億9千万円かかる見込みです。1年当たりの平均費用は約30億6千万円で、以前と比較すると約2.3倍となっています。
水道事業を継続していくためには、水道施設の統廃合や規模を縮小して施設整備費などの経費削減に努めていく必要があります。

水道料金収入の減少

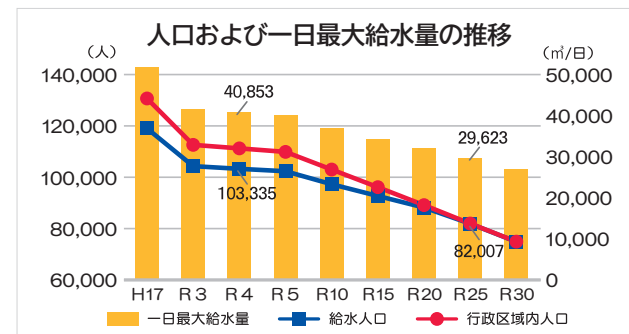


施設整備費用の増加



② 事業計画変更の概要

区分	計画目標年度	計画給水人口	計画一日最大給水量
現計画	令和5年度	11万1,200人	4万6,300㎡
変更後	令和25年度	10万3,400人	4万900㎡



「計画目標年度」を現計画から20年後に、「計画給水人口」と「計画一日最大給水量」は、計画期間内の最大値である令和4年度の数値としました。

給水人口などの予測が過大とならないよう推計し、令和25年度で給水人口約8万2千人、一日最大給水量約3万㎡の見通しとなりました。

この結果、胆江広域水道用水供給事業(胆沢ダムから水道用水を受水)からの受水計画を受水量2万5,180㎡/日に見直し、自己水源の統廃合と併せて配水計画を変更することとしました。

③ 事業計画変更による効果(令和3～35年度)

配水計画変更による費用対効果を比較した結果は、次のとおりです。30年間で約78億円の削減を見込んでいます。

- 22カ所ある自己水源を令和35年度に10カ所にします。12カ所削減することで、自己水源の施設維持管理費が減ります。
- 受水費と受水施設整備費は増えますが、受水の予定区域にある既存施設の改築更新整備費がかからなくなります。
※災害時などの給水応援体制は、近隣の事業体と検討を進めていく予定です

効果 (30年間)

水道事業経費
約78億円
削減見込み

受水計画の変更による水道事業経費の比較

【現在】 14,340㎡/日	【計画】 25,180㎡/日
施設維持管理費 89億5千万円	効果額 77億9千万円
受水費(基本料+使用料) 211億6千万円	施設維持管理費 53億3千万円
改築更新等整備費 68億3千万円	受水費(基本料+使用料) 230億7千万円
受水施設整備費 23億6千万円	改築更新等整備費 0円
用水供給事業負担金 37億3千万円	受水施設整備費 41億2千万円
	用水供給事業負担金 27億円
430億2千万円	352億3千万円